

第3回京都府食育推進懇談会 議事要旨

1 日 時

令和2年12月18日（金）午前10時から12時まで

2 場 所

ルビノ京都堀川 ひえいの間

3 出席者

【懇談会委員】10名

今里滋委員、黒田恭史委員、小切間美保委員、小西秀紀委員、酒向美也子委員、
佐々木顕子委員、田中まり委員、福井有紀委員、山下泰生委員

【オブザーバー】近畿農政局 消費・安全局消費生活課 杉山課長、京都市

【事務局】関係職員

4 議 事

(1) 報告事項

ア 第2回京都府食育推進懇談会における主な意見について 資料1
(事務局から説明)

イ 国の第4次食育推進基本計画の今後の動向について 資料2
(近畿農政局から説明)

- ・ 令和2年12月11日に開催された食育推進評価専門委員会の概要
(第4次計画の骨子案における目標設定の考え方、委員の主な意見等)
- ・ 第4次計画策定までの今後のスケジュール(意見募集の予定等)

ウ その他

- ・ 委員からの話題提供(黒田委員)
教育保障のための情報発信のあり方に関するアンケート調査結果

(2) 協議事項

第4次京都府食育推進計画の骨子(案)及び目標(案)について 資料3
(事務局から説明)

第4次京都府食育推進計画の骨子(案)について

(委員) 懇談会で様々な立場の委員がおっしゃった意見が、とてもうまく盛り込まれていると思いました。気がついた点を3点申し上げますと、まず12ページ第5章「多様な主体による食育の推進」(2)学校・保育所・幼稚園等における食育の推進について、国の第4次食育基本計画の新たな目標として5「給食における地場産物を

活用した取り組みを増やす」の⑥に「栄養教諭による地場産物を活用した食に関する指導の平均取組回数」が入っていますが、そのあたりを京都としては組み込むのが良いのか、ただ栄養教諭の配置状況等もありますのでそう簡単では無いのかなという風にも思いながら、少し検討の余地があるのではと感じました。また、これは余談かもしれませんが、12 ページ「栄養士、栄養教諭等を中核とした関係者が連携した体系的・継続的な食に関する指導の充実」という表記があるのですが、「管理栄養士、栄養士」としていただけたらなと思います。「管理栄養士」の方は国家資格ですので、他の箇所も「管理栄養士、栄養士」としていただけたらなと思いました。

2 点目ですけれども、次のページの(3)「地域における食育の推進」の1つめの○「すべての世帯における食育の推進」の具体例として、きょうと食いく先生や食生活改善推進委員など食育ボランティアによる保育所、幼稚園、認定こども園、学校、地域～とまとめてくださっておりますが、食いく先生のような本当に食育のことに熟練された先生方に来ていただくスタイルは当然推奨すべき事だと思うのですが、それだけではなくて、実際の保育園・幼稚園の現場では大変忙しい中で本当に熱心に食育活動をしてくださっています。そういう先生方がもっと食育に時間を割けるようなサポートと言いますか、ボランティアと言いますか、何かそういう仕組みも具体的に考えていただけたらなという風に感じました。

3 点目に、with コロナ時代の ICT についてですけれども、14 ページ2の(1)の1つ目の○「地産地消や食材の適切な活用推進の取組」の具体例に「cookpad 京都府公式キッチン」、また、15 ページにあります「京都府食の府民大学」、こういう京都府として提供している web 上の場所というのが、他にもあるのだろうと思うのですけれども、今あるものをうまく活用したりさらに追加したりしていただきたいと思います。例えば教育現場にいる先生方がその場を活用すると、民間の web の場を活用するのではなく、安心感があると思いますので、こういう場を積極的に活用できるよう京都府として提供することは、本当に意味があると感じました。

(事務局)

委員からご意見のあった国の第 4 次食育推進基本計画の新たな目標については、12 月 11 日に発表されたものであり、この目標の元となった調査結果についても、現段階で詳細が明確ではありません。このように情報がない中、現時点では、府の目標とするかどうかについては、少し難しいのではないかと考えております。

(事務局) 保育園等の先生方のサポートということで、ボランティアのお話をいただきまして、そういうボランティアがまさに「きょうと食いく先生」で、名前は「先生」となっているんですけど、今日出席いただいております田中委員も、農業者であって、ただボランティアとして食育の教育現場でサポートいただいているということで、そういう仕組みでございます。

web 上の場所の追加等で京都府の発信する情報が安心感を持って利用されるのではないかと、ということをお話しいただきました。まさにそのとおりで、5ページの「コロナ禍での京都府食の府民大学における映像教材の視聴数の推移」では、今年に入りましてたくさんのご利用をいただいております。中には大学・企業からも利用申請をいただきまして、活用いただいておりますので、引き続きこのような取り組みを進めて参りたいと考えております。

(委員) 御回答ありがとうございました。2つめの「ボランティアについて」ですけれども、もう少し日常的な業務をサポートすることによって、実際にこどもの近くにいる専門職がしっかりと地に足をつけた、日常的な食育を進められるようなサポートというのが、少し間接的になるのかもしれませんが、そういう仕組みも必要と思った次第です。

(委員) 13 ページに「職場、社員食堂でのおいしい料理や地場産物の提供」等コメントもいただいております。特に意見はございません。

(委員) 全体としては非常に多くの課題を網羅して、わかりやすくまとまっているというのを前提としての意見、ということで聞いていただければと思います。非常にピンポイントな細かいことで恐縮なのですが、14 ページ「食育の効果的な推進のための取り組み」(1)の最後の1行「食育の推進を通じてSDGsの実現に貢献します」ということで、今回SDGsの視点が前提として入っているのは非常によいという風に思っております。生協の取り組みとも重なるところなのですが、本文を通じてここにだけ「SDGsの実現に貢献します」と触れられていることに若干の違和感があるというか、すべてに関わる話であり、不可分という意味で、食育の取り組みそのものがSDGsの取り組みとつながっているという視点で見たときに、ここが強調されるということかもしれないのですが、やや違和感がありました。

もう一つ、「地産地消や食材の適切な活用推進の取組」ということで、本文のところとの関係でいきますと「食品ロスの削減に資する取組」というのが一つあって、そこをまとめられているのだなという風には思うのですが、それでも、「食品ロス削減の取組」というのは、ひとつ大きな課題として項目を立てても良いレベルではないかと感じています。それは私どもが事業者としてそこに特別力を入れてきていることでの、感覚的なものだとは思いますが、意見としてお伝えしたいと思っております。

(事務局) 全体として食育そのものがSDGsにつながるのではないかと、という御意見をいただきました。おっしゃるとおりでございまして、そういう意味では「はじめに」の言葉の下から2つめのブロックに全体として『こうした取組は、「誰一人取り残さない」社会を実現するため、国連において掲げられた持続可能な開発

目標（SDGs）の実現にも繋がります。』ということで、食育の取組全体が貢献するものという考えを持っておるといのは全く同一でございます。その上で具体的に入っていったところで、そこは書くべきかなあというのがあって、このところに「食育の効果的な推進のための取組」として、SDGsという言葉自体が社会的に関心の高い項目でもあるので、SDGsということ 키워ードとすることも一つ関心を持っていただけるのかなという意味を含めてここに書かせていただいたということになります。

食品ロスについて一つ大きな項目を立ててはどうか、という御意見もいただきました。どこまでできるか検討させていただけたらと思います。

（事務局）SDGsの関係は、10ページの下の表をご覧くださいますと、まさに今御意見いただきました認識と同じ認識をもっておりまして、家庭や学校、地域それぞれの取り組みをしていただくにあたって、表の真ん中のところ「食育への関心の向上」の中に「SDGsの実現に向けた食育の推進」ということで、これはすべての取組に共通することだという認識は持っております。例えば9ページの今回の第4次計画の基本方針の中では、「国がこういう風に掲げられました」ということで言及が止まっておりますので、例えばここに「京都府としましてもこういった観点で共通項として取り組んでいく」というような表現で工夫させていただきたいなと思っております。

（座長）資料「国連食料システムサミット」を見ていますと、食料システムというのは、SDGsの実現に重要であるという認識ですね、食とSDGsとの関係がパラレルというか車の両輪のように位置づけられている感じがいたします。国あるいは京都府の食育推進計画もどういう風にSDGsと関連付けていくのかというのは課題かなという風に感じました。

（委員）本当にしっかりとまとめていただいた良い案だと思っております。私の、この案についての意見は無いのですけれども、案を具現化するために今後こういう風な工夫も、というところだけ一つ述べさせてもらいたいと思います。私たちは先ほどもありましたとおり、現場が忙しいです。なかなかこういう計画を一つ一つどう見たら良いか、しかも子供にどういう風にわかるように、という面では苦労しているところなのですけれども、やっぱり先ほどもあったように栄養教諭なり、栄養教諭がいなくても給食主任が、中心となって食育を進めているのですけれども、その者たちが集まって勉強する場というのが1年に1回、京都府学校給食研究協議会というのがある訳なんです。いつも12月に京都テルサで開かれているのですけれども、今年は紙上発表という形になったのですけれども、そういう場で「行政説明」というのがありまして、いつもその場は、最新の情報を得る場ということで私たちも大切にしているのですけど、是非こういう新しい概念ですね、SDGs

とか、あるいは地元食材とか、新しく案の中に入ってきた部分についての必要性や、こんな取り組みができるのではないかなといったことを御紹介いただきますと、栄養教諭なり現場の教師の方も、それじゃあ一回やってみようかということになりますし、あるいはきょうと食いく先生や食生活改善推進委員などについても、こんな提供ができますよというような御紹介があれば非常にありがたいと思っています。

(座長) 計画の中ではボランティアの役割、特にきょうと食いく先生の役割が記述されているわけですが、いかがでしょうか。

(委員) コロナ禍になって、授業が分散しているので、1学年に対する時間の割合がすごく少なくなって困っていらっしゃるというのは感じます。大勢でできない活動を分散して取り組んでいくという中で、秋くらいから食育授業を取り上げてされる学校が増えたので、その中でも、1クラスずつするとか、1クラスを2つに分けてするというのが学校でも中心になってきているので、1学年に対しての時間数が少ないというのがあります。

この案に関しては私もすごく良いなと思うので、これを形にできるように、自分の中でしっかり取り入れて、伝えていきたいなというのがありますし、少しでも貢献できるようにしたいなという風に思っています。

(座長) 国の計画も府の計画も「with コロナ」や「ニューノーマル」と言われるような時代における食育をどうするかということがあるんですけども、特にやはり子どもたちが大きな影響を受けるということが十分に予想されますが、いかがでしょうか。

(委員) 内容的にこの案についてどうのということは無いですけれども、今後 ICT を使って形を変えてやっていく必要があるかなという風に思っております。例えば私は算数・数学が専門で3箇月に1回「これからの算数・数学教育を考える会」というのを開催して参りましたけれども、以前は金曜日の夕方6時からやっていたんですけども、だいたい10数名の参加でした。コロナ禍になりましたので、zoomでの開催をしたところ90名の参加ということで、全く違う状況ができたんですね。学校の先生方は本当にお忙しいので6時に京都教育大学に来ないといけないとなると、5時に学校を出ないといけない、でも色々な残務があるのでなかなかその時間に出られないという状況がありましたけれども、6時から7時半の間だけ学校でコンピューターを使いながら zoom で参加できたら、また終わったら自分の仕事に戻ることができるかという形での、今までだったら絶対にどこか1箇所に集まってやらなきゃいけないという風に思っていたところを少し変えていく、その結果、多くの方々が時間的に余裕を持って参加できるような形態とか、今日紹介したアンケートも実際フォーラムではオンデマンドでやります。オンデマンドというのは、既

に動画に録画しておいてそれを皆さんが一定期間の間に視聴して、その後ディスカッションをするという状態を作ってるんですね。そうすると、その日のその時間無理だけれどもという方も参加することができますし、オンデマンドの良いところは、私のフォーラムの内容も皆様に見てくださいねと URL を送るだけで見れてしまうという状況で、非常に広範な形、あるいは、動画が残りますので、継続的に視聴できるというシステムになっていますので、そういう仕組みをうまく第4次計画を実行される際に活用していただけると、より効果が発揮されるのではないかと思います。

(委員) すごく立派な計画案だなと思って見せていただきました。先ほどお話しに出てましたけれども、幼稚園は義務教育ではありませんので、各市町によって色んな幼稚園があったりだとか、今こども園化も進んでおりますので、本当に色々なと言いますか、統一されていないところがありまして、例えば zoom 会議一つをとりましても、今年、府の幼稚園の研究会を zoom でしようと思ったときに、園で zoom 会議ができないという園が本当にありまして、役所に行かないとできないとか、そういう状況で、そういう会議一つするにしてもなかなかハードルが高い現状があります。特に地域差が顕著に出ていて、乗り遅れているなという感じが否めなかったんですけど。

12 ページに書いていただいているみたいに、関係者が共通認識の下、みんな食育が大事というのはもちろん分かっていますし、各地域性とかに応じて取り組んでいるとは思いますが、なかなか共通認識で連携・体系的にというのが厳しいのかなあという風に思っています。私も食いく先生はもちろん知っているんですけど、なかなかそこを利用するというよりは、地域の方に直にお願いするということがたぶん通例というか慣例に幼稚園の場合はなっているのかなというのが実際に、こちらも考えないといけないとは思いますが、そこをもうちょっと利用しやすいとか、これやったら幼稚園の子にお願いできそうとか、もう少し低年齢化と言いますか、ハードルを下げてもらえたら嬉しいかなとお話を聞いていて思っておりました。感想とかお願いになりましたけれどもよろしくお願ひします。

(委員) 繰り返しの中身になってしまうかもしれないんですけども、方策の中身については全てやらなければいけないことだなと、これ以上のこともたくさんあるかもしれないんですけども、これをどういう風にして実践していくのかが一番大事なのかなと思っています。

京都府の食育推進計画は、京都府さんの方でしっかりリーダーシップをとっていただいて、各市町村とも連携して、市町村の中で「京都府民運動の推進」という風に入れていただいているので、府民の意識を高められるような施策とか取組方針、取組方法とか、私たち参加している委員が所属している団体は言わなくてもしっかりみんなやるべき事を分かって進めていけると思っていますし、私たちもやっぱり作り

手には作り手に対する支援なりは考えてやっていかなければならないなとも思います。

またそれを食べていただく方々へのアプローチというのもずっとしてきているわけではあるんですけども、なかなかうちだけで出来ないことは、京都府さんと連携しながら色々な取り組みを進めて参りましたし、府内の JA に関しましては、それぞれ管内の市町村と連携して進めてはいますけれども、自発的に既に取り組をされている家庭や幼稚園、学校、関係団体とかはもしかしたら何も言わなくても既に取り組ををしていただいているので、進めていただけるかとは思いますが。

やはり京都に住んでいる方々が、自分の健康と、それをこれからも残していくという意識を持って取り組んでいくためには、地域、地域でしっかり連携をして取り組みを進めるといふか、書いていることをやるのは多分すごく難しいこともあると思うんです。

先ほどから皆さんの御意見もあったとおりに、もっとこうしなければならないあしかなければならないという御意見がある中なので、そこをどういうふうにしてやればそれが進むのかということを考える機会を増やしていかなければ、進んではいけないのでは無いかという風に思いますので、そこはきちりやっぱり旗振って各市町村で取り組みが進められるように京都府さんの方も、国と連携しながらサポートを進めていただけたらなと思います。

意見では無くお願いになりますけれども、また各それぞれ目標に対して、関係の担当課があるのでそこを中心に進めていただけたらなという風に思います。無論私たちも協力はしていきたいなという風に思いますので、一つお願いしたいと思えます。

(事務局) 身近なところで食育を実践されておられる方々との連携でありますとか、市町村との連携の大事さをお話いただきました。一つは、食いく先生も必ずしも食いく先生の連携としての活動だけでなく、地元で活動される方もたくさんありますし、そういう中の一部として食いく先生の活動という風に認識しておりますので、身近に幅広いボランティアの活動があるんだなあということの大事さは私たちもつくづく感じておるところであります。引き続きよろしく願いいたします。

もう一つは、市町村との連携のお話がありました。市町村につきまして食育推進計画の策定が難しいところがございますので、そこを支援できるように目標を持って取り組みたいと考えております。市町村での食育の取組が推進できますように御協力をお願いいたします。

(座長) ここで、欠席の委員さんからのご意見を読み上げたいと思えます。

- ・「京の食文化ミュージアムあじわい館」の活動を全面的にバージョンアップしてはいかがでしょうか。たとえば小浜の博物館をお手本に、京の食文化が分かる展示を。ここを情報発信拠点と位置付けて京の食の全容が見えるように。

これには大学等との連携が必須。全般に、大学との連携が弱い、限定的なので、個々の先生ではなくて、組織としての大学をもっと使ってください。

- ・コロナについては、もっと大胆な計画があってもよいのでは。外食産業の産業構造の変化に対する対策、産業構造を積極的に変えてゆく計画が欲しい。

(事務局) 「京の食文化ミュージアムあじわい館」につきましては、京都市と京都府のいわゆる府市連携施設ということで京都府民、京都市民の皆様にも止まらず広く観光客の皆様方に京の食文化ですとか、食材に接する機会を提供して、伝統的かつ創造的な京の食文化の素晴らしさを実感していただくとともに、京都中央卸売市場もごございますので、市場ですとか周辺地域の活性化を図るということなどを目的に運営をしているところでございます。その中でいわゆる行事食ですとか儀礼食、京野菜、京料理、和菓子、清酒などの京の食文化の展示ですとか、京の食文化の語り部による講演を実施いたしまして、食文化の発信を行っているところでございます。今年度につきましては、先程来ありますように新型コロナウイルス感染症の影響をふまえてオンラインでの講座を開始いたしまして、府内だけではなくて全国に向けた発信を行っているところでございます。

それから、大学との連携につきましては、京都府立大学、京都女子大学、平安女学院大学、京都ノートルダム女子大学の4大学が食育と京の食文化をテーマにあじわい館で実施するイベントとしまして、「京の食育ワンダーランド」といったイベントを開催するなど、積極的に連携を進めているところでございます。今後につきましては、これらの取り組みをさらに拡大して京の食文化の魅力発信を行っていきたいと考えております。

(座長) 小浜の御食国若狭おばま食文化館の館長をしている中田典子さんは、私のところのゼミ生ですし、大学との連携で思いついたんですけれども、立命館大学の石田雅芳さんというイタリアのスローフード協会の事務局長をしていた方がいらっしゃるの、イタリアやヨーロッパの食文化に非常に詳しいですので、もし良かったらそういった国際的な見地からも詳しい方に入っていただければなと思います。

ご参考までになのですが、来年度から私のところの大学院に大和田順子さんという方が来られるんですね。ロハスを日本に紹介した方で世界農業遺産の選定の委員もされていた方で、各地の食文化や伝統食にもお詳しいので、御紹介のあった4つの大学の他にも、教員を活用していただいて、ユニークな取組を進めていただければなと思います。

(事務局) 委員から、コロナについての御意見もいただいておりますので、京都府の今の状況を御報告させていただけたらと思います。京都府では新型コロナウイルス感染症の感染拡大、長期化による消費行動や社会構造の変化に対応した産業戦略の検討を目的に、商店街・小売業、ものづくり産業、伝統産業、観光関連産業、食

関連産業の5分野からなる新型コロナウイルス感染症対策危機克服会議を設置しております。先ほどの委員の御意見も、食育と言うよりももっと大きな御意見だったかと思しますので、現在コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金事業ということで各分野の新しい京都産業ビジネスモデルの実証に取り組んでおるという状況でございますので御報告させていただきます。

(座長) 皆さん貴重な御意見をありがとうございました。では、進行を事務局の方にお返しします。

(事務局) 貴重な御意見ありがとうございました。いただきました御意見は、例えばSDGs、食品ロス、ICT等いろいろなキーワードがございましたので、反映させてきたいと考えております。12月22日からパブリックコメントを実施させていただきます。府民の意見から色んな御意見をふまえて最終案という形で次回の懇談会3月上旬目途でお示しさせていただきたいと考えております。

何より大切なのはこの計画をいかに実践していくかということで、多くの委員からもそういった御意見をいただきました。その中で、市町村の取り組みが一番大切だと思っております。現在18市町村で食育推進計画を策定いただいている、逆にまだ作っていただけていない所もあるということで、今我々の事務局の方で市町村に策定いただくための手引きというものを作りまして、未策定のところに回っていくと考えているところです。

そういった市町村であったり、今里先生に代表をお世話になっております「きょうと食育ネットワーク」には87の団体に御参画いただいているといったことで、こういった団体にも御理解いただきながら、しっかりとした施策を作り込んでいきたいと考えておりますので、引き続き御協力をお願いいたします。

次の第4回の懇談会は2月下旬から3月上旬ということで、心づもりをお願いいたします。本日はありがとうございました。